

保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会について

1 趣旨

保健師助産師看護師国家試験は、保健師、助産師又は看護師（以下「看護師等」という。）として必要な知識及び技能を評価するものであり、これまでも質の高い看護師等の確保を図るために重要な役割を担ってきた。

我が国においては、少子・高齢社会の進展、医療の高度化に伴い、国民の医療への期待が高まっている。その一方で医療・看護に関する社会的課題も大きく、看護師等に対しても、これまで以上に重要な役割を求められるようになった。

国家試験制度においては、国家試験の内容や方法がその時代や社会に求められている看護師等としてふさわしい能力を問うとともに、国家試験としての信頼性を高めるため、保健師助産師看護師国家試験制度改善部会において定期的に検討を重ねてきた。平成 19 年に開催した前回の改善部会での検討を受けて、平成 21 年の試験から多様な出題形式等を導入、平成 22 年の看護師国家試験では必修問題の強化等を図ってきた。また、看護基礎教育の教育内容の充実を図り、看護実践能力を強化することを目的に、平成 23 年 1 月に保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正により、カリキュラムの改正が行われ、これに伴い、平成 24 年以降に実施される看護師国家試験及び平成 25 年以降に実施される保健師国家試験については、試験科目の改正も行われた。

このような背景を踏まえ、今般、医道審議会保健師助産師看護師分科会の下に、保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会を開催し、現行の国家試験について評価するとともに、保健師助産師看護師国家試験の改善事項について検討を行うものとする。

2 検討事項

- (1) 前回の保健師助産師看護師国家試験制度改善部会報告を踏まえた改善事項の評価
- (2) 出題形式に関する改善事項
- (3) 保健師助産師看護師国家試験出題基準について
- (4) その他

3 部会構成

部会委員は、別紙のとおりとする。

4 スケジュール

平成 23 年度中に保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会報告書を取りまとめ、保健師助産師看護師分科会に報告する。報告書を踏まえ、平成 24 年度に保健師助産師看護師国家試験出題基準の改定を行う。

平成 23 年度保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会委員

荒川 眞知子	日本看護学校協議会会長
池西 静江	京都中央看護保健専門学校参与
池ノ上 克	宮崎大学医学部附属病院長
市川 幾恵	学校法人昭和大学統括看護部長
伊藤 圭	大学入試センター研究開発部試験基盤設計研究部門准教授
岡本 喜代子	日本助産師会会長
萱間 真美	聖路加看護大学看護学部教授
北川 浩明	虎の門病院産婦人科部長
小山 和子	鳥取赤十字病院看護部長
坂本 すが	日本看護協会会長
島田 啓子	全国助産師教育協議会会長
中山 洋子	福島県立医科大学看護学部教授
野上 康子	教育測定研究所研究開発部研究員
野嶋 佐由美	日本看護系大学協議会代表理事
春山 早苗	自治医科大学看護学部教授
藤川 謙二	日本医師会常任理事
藤原 啓子	全国保健師長会
堀内 成子	聖路加産科クリニック副所長
村嶋 幸代	全国保健師教育機関協議会会長
林正 健二	山梨県立大学看護学部教授

敬称略（五十音順）